

2021年新年おめでとうございます。
第23回「資本論を読む会」は
 日時：2021年1月19日（火）
 午後6時から。オンラインで開催します。

DAS KAPITAL



新年
頑
張
ろ
う
!!

第8章 労働日 第1節労働日の
 限界（岩波文庫93P）からやります
 ※新しい参加希望者にも「招待
 状」を出しますので事務局ま
 でご連絡下さい。

今回12月の「読む会」は過去
 最多10人が参加しましたよ。

12月22日（火）の第22回「資本論
 を読む会」は、今回もオンライン開催
 (ズーム)としましたが、参加者が新た
 に1名加わり（現役です）、過去最多
 10名での勉強会になりました。実に
 難解な議論となりましたが、レポーター
 のTakさんの奮闘もあり、何とか分
 かったような気がします。

次回は「第8章労働日」から。ここ
 は「労働者には分かりやすい」と言わ
 れるところで、「資本論を読むなら第

8章から」と奨める先輩学者（伊藤修さん）もいます。
 次回もリモートで開催しますので、全道どこからでも参加できます。参加を希望する方は、支
 局・社青同の事務局に、お気軽に連絡を下さい。招待状をお送りします。
 ☆「資本論を読む会」のこれまでの資料は下記ホームページでご覧になれます。
 © <http://socialistho.cafe.coocan.jp/> 「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。
 パスワードは不要で閲覧できます。

Tak レポーターから

<第七章 第二節 生産物の比例諸部分における生産物価値の表示>

以前示した例に帰る。(第五章第二節 価値増殖過程の例)
 総価値：燃糸価値30シリング=24シリングc+(3シリングv+3シリングm)
 cの価値：24シリングc=原料20ポンド綿花20シリング+他不変資本4シリング

※「価値」量による表現
 総生産物量：燃糸20ポンド=16ポンドc+(2ポンドv+2ポンドm)
 燃糸16ポンドc：燃糸(13+1/3)ポンド・原価価値+燃糸(2+2/3)ポンド・他不変資本価値

※使用「価値」量による表現
 総労働時間：燃糸計60時間=綿花40時間+他不変資本8時間+可変資本6時間+剰余価値6時間
 ※「労働時間」による表現

さらに、「発生過程・時間経過」とともに、機能的に区別された生産物諸部分として、示すこともできる。
 しかし、労働時間の最初から前貸資本を回収し「最終1時間」だけを剰余価値生産に捧げる、という、シーニョアのような
 見解は誤り。これは「二重の奇跡=誤り」を犯している。

- ①使用価値：12時間の紡績労働と同時に、生産手段（綿花・紡錘・蒸気機関・石炭・油等）も生産すること。
- ②価値：1労働日（12時間・6シリング価値）が、同強度の5労働日（60時間・30シリング価値）と等しいとすること。

<第三節 シーニョアの「最終一時間」>

シーニョアの主張（1837年）：全純所得が、「11時間30分の労働日」の、最終の1時間から出ている。
 だから、（検討中の）「10時間労働」になったら、資本家の総利得は失われてしまう。

※イギリス「工場法」：労働日「11.5時間」（1833年）をさらに「10時間」に短縮しようとする動きに反対。
 本質的には、前貸し「不変資本」と「可変資本」は、「別に置くこと・別々に考えること」が必要。

労働力の 使用価値	労働の 二重性	質：具体的有用労働 量：抽象的労働	労働過程 価値（形成）増殖過程	「使用価値生産」と「生産手段価値の移転・保存」 抽象的労働の対象化で、「新たな価値を生産」
--------------	------------	----------------------	--------------------	--

12労働時間中、「価値移転」と「価値形成」の労働は、全く別の過程でそれぞれ12時間行われる。

<第四節 剰余生産物>

剰余価値が表示される生産物部分を、「剰余生産物」と名付ける。
 剰余生産物の高さは「必要労働での生産物：必要生産物」に対する比率に規定される。剰余価値率と同様。
 剰余価値生産が資本主義的生産の目的＝「富の高さ」は「剰余生産物の相対的大いさ」で測られる。
 必要労働と剰余労働との合計は、労働時間の絶対的大いさ、「労働日」をなす。